令和5年度

令和6年度版

松阪社協
地域福祉教育取組事例の紹介

体験学習の内容は、
理解の深化につながる
よう、工夫を設けました。

私たちの住む地域
について、一緒に
考えることができ
ました。

赤い羽根共同募金
を勉強して
一緒に募金活動に
取り組みました。



※　一部　令和4年度の取組も含んでいます

松阪市内で、
さまざまな取り組みが行われました！



地域福祉教育取り組み内容紹介

◆地域とともに・・・

松阪社協が実施する地域福祉教育は、「地域」の課題や要望に合わせて、「地域」とともに実践します！

地域の数だけ実践例があり、実践例の数だけ、学びの豊かさがあると考えます。

先生より課題を伺いながら、ともに授業内容を組み立てたり、本ガイドの中から選択いただいたプログラムを一緒になって実施してきました。





◆地域福祉教育の取り組み事例紹介

松阪社協に、授業の依頼をいただき、一緒に実施をしてきた取り組み内容を、わかりやすくまとめました。

松阪市内で行われた、地域福祉教育を是非ご覧ください。

取り組み名	高齢者疑似体験・車いす体験		
目　　標	共生について学ぶ。さまざまな立場の方がいらっしゃることを学び、一緒に生活すること・できることを主体的に考える。		
実施日	令和５年１１月８日（水）～10日（金） ※クラス毎に実施。	場　　所	小学校　体育館・教室
所要時間	各日2～４限目	対　　象	4年生（100名）
講　　師	・松阪社協職員 （協力　UDうれしの）　UD：ユニバーサルデザインの略		
準備物	社協から持参したもの：高齢者疑似体験セット、お買い物体験セット、車いす、スロープ 学校でご用意いただいたもの：電子黒板、運動用マット、三角コーン		



内　　容

１．導入

身近にどんな人が住んでいるか思い浮かべた後、日本では高齢者が増えていることを学びました。
また、事前学習として「UDうれしの」によるUD講話を聴いていただきました。

２．体験

体験ポイントを３か所設置。各ポイントを体験するごとに、「体験学習まとめシート」に感じたこと・振り返りを記入し、振り返りへつなげました。限られた時間の中で安全に体験するため、疑似体験では装着するセットを厳選しました（※）
２人１組になり、高齢者役・介助者役どちらの立場も体験をしました。

体験①　高齢者疑似体験（お買い物体験）
手指の感覚の違い、お金の見え方の違いの体験。

体験②　高齢者疑似体験（教科書音読体験）
ふだん見慣れている教科書。写真や図の見え方、声の聞こえ方を体験。

体験③　車椅子体験
段差、スロープ、悪路に見立てたマット上の走行。

３．体験のとめなおし・まとめ

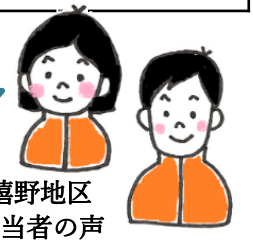
体験で感じたことの振り返り、体験を知識定着するために、加齢による色覚変化や音の聞こえにくさのとめなおしを行いました。
年を重ねることで苦手になることもあるけど、得意なこともある。「高齢者だから・・・」「障がい者だから・・・」「〇〇だから・・・」ではなく、みんな同じ。周囲の人の理解や協力があることで、みんなの暮らしやすさが変わることを学びました。

※　この学習で使用した疑似体験セット
・ゴーグル（視野・色の見え方の変化）
・イヤーディフェンダー（聞こえにくさ）
・手袋（手指の感覚の鈍さ）

ここがポイント！

子どもたちにとって身近な行動（お買い物）や身近な物（教科書）が疑似体験によってどのように感覚が変わるのかを体験してもらいました。お買い物でお金を出す時どのような気持ちか、目が見えにくくなる・耳が聞こえにくくなることがどのような感覚か、どんな場所が車椅子で通りやすいかを体験的に理解してもらうことができました。
最後のまとめの時間には、見え方・聞こえ方の特徴を学ぶことで、体験したことのイメージを知識として定着することができたのではないかと思います。

「これから活かしていきたいこと」には、「車いすの人を見かけたら道を譲りたい」「困っている人がいたら声をかけたい」という感想が多くとても頼もしく思います。
今後、みんなが暮らしやすいまちを考える主人公として活躍されることを期待しています！



嬉野地区
担当者の声

当日の様子



体験①　高齢者疑似体験（お買い物体験）

【お買い物体験】
金額の聞き取り➡お財布を開ける➡金種を認識（計算）して取り出す。

【気づき】
・お金の見分けがつかず困った。
・お金をつかむことが難しかった。

【振り返り】
・『早くして』ではなく『大丈夫ですか？手伝うことはありますか』と優しく声をかけたい。



体験②　高齢者疑似体験（教科書音読体験）

【気づき】
・見出しなどの大きな字は読めるけど、小さな字は見えなかった。
・新聞をどうやって読んでいるんだろう。
・なぜ目を細めて字を見るのかなと思っていたけど、視界がぼやけるからだとわかった。
・ページをめくるのが大変だった。
・ピクトグラムで表した標識は、見え方の変化が少なくすごいと思った。
・隣の人の声が全然、聞こえなかった。



体験③　車いす体験

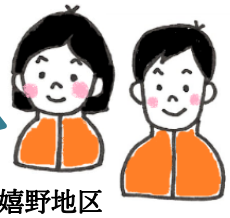
【気づき】
・車いすは歩かないから良いなと思っていたけど、段差が上がれなかったり大変だということがわかった。
・声かけをしながら動かしてもらえて安心した。
・介助する人の大変さがわかった。

【振り返り】
・困っていたら自分にできることをしたい。
・みんな（高齢者・障がい者・一般の人）が安心できる世界にしていきたい。

取り組み名	防災キャンプ		
目　　標	住んでいる地域で過去に発生した災害を知り、今自分たちができる備えは何か考える。 発災後、身近なものを活用し、“生き延びる”方法を知る。		
実施日	R5年7月１１日（火）事前学習 R5年７月２０日（木）キャンプ	場　　所	豊地小学校、中郷公民館
所要時間	事前学習　　45分 キャンプ当日　90分	対　　象	5年生
講　　師	・ボランティア ・松阪社協　職員		
準備物	学校でご用意いただいたもの：電子黒板、新聞紙、炊飯用ビニール袋、無洗米、カレー（レトルト）		
内　　容	**事前学習** 防災キャンプに向けて、「防災とは？」「災害とは？」の投げかけをしました。また大規模災害時には、当たり前に思っているライフラインが使用できなくなり、それによりどんなことに困るかを考えてもらいました。 ワークショップとして、洗い物を減らすために、新聞紙を活用したお皿を作成し防災キャンプに向け準備を一緒に行いました。 **①自分たちの住んでいる地域を知る** 昭和57年の台風10号（通称：57台風）により、この地域では大きな被害を受けました。57台風を経験された地域の方から体験談・教訓を子どもたちにお話しいただきました。災害により、家族と連絡が取れなくなった不安、やっと温かい味噌汁を飲めた時の安堵感。早めの準備・避難行動の大切さ、「命を守る行動」を第一に考えて欲しいと呼びかけられました。 **②防災食づくり　～ライフラインが切断された状態でもできるカレーづくり～** ライフラインが切断された状況を想定し、カレーづくりを行いました。限られた状況の中で生き延びるためには、知恵と工夫が大切であることを学びました。		
ここがポイント！	地域の方から、自分たちの住むまちで起きた災害の話を聞くことで災害が決して他人ごとではないことを認識してもらえたと思います。 事前学習で、水がない・・・電気がない・・・について、普段の生活を想像しながら、どんなことに困るか具体的なイメージをしました。合わせて、身近な物を活用してできる工夫を学ぶことで、「怖い」だけでなく「自分にできることを考える」へつなげられたと思います。		



まずは、子どもたちに「防災」について関心をもってもらうこと・自分ごととして捉えてもらうことが大切だと思います。貴重な体験談とワークショップ（防災グッズづくりや防災食づくり）を組み合わせ、子どもたちができる災害の備えを考えるきっかけになったと思います。
「楽しい」をきっかけに防災への関心を高めることができました。



嬉野地区
担当者の声

当日の様子



事前学習
**　新聞紙を活用したお皿づくり**

災害時には、協力しあうことが大切。
わからない部分は、声をかけ合いながら教え合って完成させました。

苦労して作成した分、お皿への愛着がわきます♪



防災キャンプ　カレーづくり

最難関！
お米とお水を入れた袋から空気を抜きます。
中のお水が漏れないように慎重に・・・



自分たちの住んでいる地域を知る

炊飯の待ち時間を利用して、地域の方の57台風体験談と教訓のお話を聞きました。「テレビの中ではなく、本当の話」と子どもたちに語りかけ、真剣に聞き入っていました。





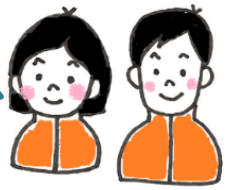
炊きあがったご飯を
バケツリレー方式で運びました！

あつあつのカレー
「おいしい」という声が飛び交いました！
“おかわり”する子も♪

取り組み名	防災キャンプ		
目　　標	住んでいる地域で過去に発生した災害を知り、今自分たちができる備えは何か考える。 避難所での生活を考える体験を通して、互いに助け合い協力することの大切さを学ぶ。		
実施日	R5年7月20日（木）	場　　所	豊田小学校
所要時間	3時間30分	対　　象	5年生
講　　師	・ボランティア ・松阪社協　職員		
準備物	学校でご用意いただいたもの：電子黒板、乾パンピザの材料（乾パン、スライスチーズ、ケッチャプ、クッキングシート、アルミホイル）、乾パンピザの調理器具（フライパン、フライパンの蓋） ※缶易トイレ材料費として100円/個かかります		
内　　容	**①自分たちの住んでいる地域を知る** 昭和57年の台風10号（通称：57台風）により、この地域では大きな被害を受けました。57台風を経験された地域の方から体験談・教訓を子どもたちにお話しいただきました。「まさか山が崩れるとは」という率直な想い、田んぼが水浸しになる様子・川の境目がなくなり道路が川になっていた恐ろしさ、近所の方の安否がわからない不安。「だからこそ、どんな備えができるのか家族で話し合って欲しい」と呼びかけられました。 **②防災食づくり　～ライフラインが切断された状態でもできる乾パンピザ～** ライフラインが切断された状況を想定し、乾パンピザをつくりました。限られた環境でも、工夫次第で味や食感を変えることができます。また、洗い物を減らすことで、災害時に貴重な水の使い方について考えました。 **③缶易トイレづくり(※)** 災害時になぜトイレの備えが大切なのかを学びながら、マイトイレを製作。ボランティアより、避難所の生活についての話を聞きました。 （※）缶易トイレ　防災ボランティア『春告鳥』のオリジナルトイレ		
ここがポイント！	地域の方から、自分たちの住むまちで起きた災害の話を聞くことで、災害が決して他人ごとではないことを認識してもらえたと思います。 「乾パンを初めて見た！」という子もおり、非常用食料に触れる機会にもなりました。製作したマイトイレは、今日からできる備えとして、各家庭へ持ち帰りました。		



まずは、子どもたちに「防災」について関心をもってもらうこと・自分ごととして捉えてもらうことが大切だと思います。貴重な体験談とワークショップ（防災グッズづくりや防災食づくり）を組み合わせ、子どもたちができる災害の備えを考えるきっかけになったと思います。
「楽しい」をきっかけに防災への関心を高めることができました。



嬉野地区
担当者の声

当日の様子



自分たちの住んでいる地域を知る

　高校生の頃、嬉野宇気郷で被災された伊藤さんよりお話を伺いました。
　被害の様子を写真で見せていただき、道路が崩れてしまった様子、土砂で家が埋まっている様子がわかりました。
　「台風の怖さがわかった」「いつ起こるかわからない」といった感想が聞かれました。

防災食づくり
～乾パンピザ～

　ケチャップで絵を描いたり、文字を書いたり楽しみながら防災食づくりができました。
　フライパンにクッキングシートを敷くのも、「洗い物を減らす工夫」です！







缶易トイレづくり

　最大の山場！12本の棒づくり。
　握力の必要な作業に悪戦苦闘しながらも協力し合ってマイトイレを完成させました。

取り組み名	高齢者疑似体験（歩行体験・見えにくさ・聞こえにくさ体験）		
目　　標	身近にいる人がどんな気持ち、苦労があるかを知り、自分たちにできることは何かを考える力を身に付ける。		
実 施 日	令和５年11月27日（月） 令和５年11月28日（火） 令和５年11月30日（木）	場　　所	山室山小学校
所要時間	５・6限目（90分）	対　　象	4年生
講　　師	社協職員		
準 備 物	（社協）高齢者疑似体験セット、イヤーディフェンダー、ゴーグル （学校）体育館マット（30日のみ）		
内　　容	当日は「高齢者体験セットによる歩行体験」と「イヤーディフェンダー・ゴーグルによる見えにくさ・聞こえにくさ体験」に分かれ、高齢者の立場で難しいことは何か、介助者として、どういった声かけや行動ができるかを体験してもらいました。 【事前学習】 「高齢者は何歳からか」「身近な高齢者はいるか」等高齢者についての事前学習をしていただきました。 【前置き】 事前学習にて学んでもらった内容について復習をしました。 【歩行体験】 体験における注意事項を説明し、２人１組で片方が高齢者役、もう一人が介助者役として装具の装着を行いました。装着後、１組ずつ階段の上り下りを体験し、高齢者・介助者それぞれの立場から学んでもらいました。その後、高齢者役と介助者役が交代し、体験をしました。 【イヤーディフェンダー・ゴーグルによる見えにくさ・聞こえにくさ体験】 体験における注意事項を説明し、２人１組で片方が高齢者役、もう一人が介助者役として装具の装着を行いました。装着後、「後ろ側からの声かけ」や「絵本・図鑑の読み上げ」「絵本の中身はどんな色ですか？」といったクイズを通して、見えにくさや聞こえにくさを体験をしてもらいました。 【全体振り返り】 「①それぞれの体験でどんなことを感じたか」「②困っている人の例を挙げ、目の前にいたらどんな声かけや対応をするか」を考えて発表してもらいました。		
ここがポイント！	高齢者役と介助者役に分かれて、双方の立場を体験してもらうことで、身近な高齢者の方（登下校見守り隊の人等）の苦労や日常生活を理解することができたかと思います。今回の具体的なイメージが、生徒の今後どうしていくかという指針を考えるきっかけに繋がればと思います。		



事前学習の振り返りでは、前期高齢者と後期高齢者との違いまで答えてくれた子もおり、かなり勉強しているなと感心しました。相手のことを知ろうと調べることは今後の力になるかと思います。今回学んだことをきっかけに、今後の支え手としての活躍を期待しています！



花岡地区
地域担当者の声

当日の様子



高齢者疑似体験



イヤーディフェンダーと
ゴーグル体験の様子



振り返りの様子【どんな声かけをしたらいいか分かった】
との感想がありました

取り組み名	赤い羽根の共同募金ってどんなこと？？		
目　　標	赤い羽根の共同募金のしくみを学び、募金が自分のまちで活用されていることを知る。		
実施日	令和5年 11月 6日(月)	場　　所	ランチルーム
所要時間	45分	対　　象	米ノ庄小学校6年生（高学年）
講　　師	松阪市社会福祉協議会　三雲支所		
準備物	パワポ資料、赤い羽根の共同募金（4年度実績版）、募金箱		



内　　容

①「福祉」って何かな

「ふ」「く」「し」ふだんのくらしをしあわせにをテーマに福祉と赤い羽根の共同募金を結びつけました。またふだんの暮らしを幸せに実現するため、私たちの住むまちで助けを必要としている人に役立てられていることを知ってもらいました。

②自分の住んでいるまちでの募金のつかいみち

三雲地区と米ノ庄地区にクローズアップさせ、子ども会や宅老会、公民館などで開催されている行事を紹介しました。共同募金が身近に知っている行事に使われていることを知っていただきました。

③赤い羽根の共同募金のしくみ

赤い羽根の共同募金が計画募金で松阪市への誰かの募金が誰かのためになることを知っていただきました。

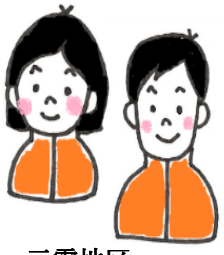
④あかねちゃんムービー（配食サービス編）

赤い羽根の共同募金のムービーをみてもらいながら、最後に子ども達に質問をしました。
配食サービスの弁当の仕組みや松阪市のボランティアさんの活躍などを説明しました。

ここがポイント！

自分の住んでいるまちをクローズアップし、赤い羽根の共同募金を学ぶ。

米ノ庄小学校は、以前から学校募金に積極的に取り組んでいただいている学校です。赤い羽根の共同募金は知っている、でも詳しくは知らないから学びたいという声を学校からいただき授業をさせていただきました。「自分の住んでいるまちの行事で使われていたんだ」と共同募金を身近に感じていただき、学校行事時に保護者向けに一生懸命に募金活動をしていただきました。募金をしていただいた方に、子ども達が赤い羽根をつけているのを見て、共同募金の原点とも言える光景を見れてうれしくなりました。



三雲地区
地域担当者
の声

当日の様子



共同募金ってなんだろう？？



共同募金について感じたことを発表

取り組み名	朝見地区ふれあい防災訓練　～新聞紙スリッパを作ろう！～		
目　　標	新聞紙スリッパづくりを通して、防災時の活用できるものや防災についての正しい知識を学ぶ。		
実施日	令和５年１０月２１日（土）	場　　所	朝見小学校
所要時間	約３０分	対　　象	全校生徒
講　　師	社協職員　地域担当		
準備物	（社協）パワーポイント資料、新聞紙 （学校）セロテープ、ハサミ		



内　　容	朝見地区全体で防災訓練が実施されました。「一般参加者」と「児童」に分かれ、それぞれ訓練を行いました。児童は「新聞紙スリッパづくり」に加え、「防災映像」「救助袋避難訓練」「起震車体験訓練」「消火器体験」「濃煙体験」を行いました。 【新聞紙スリッパづくり】 当日は体育館に全校生徒が集まり、高学年グループに分かれ、新聞紙スリッパを作成しました。 ①前置き 身の回りの「新聞紙」でスリッパが作れることをお伝えしました。 ②新聞紙スリッパ作成 体育館内スクリーンにパワーポイント資料を映し出し、１つ１つの手順を確認しながらみんなで一緒に新聞紙スリッパを作成しました。わからないことや作業が遅れている子は、生徒同士での教えあいや先生・住民自治協議会の役員の方に協力していただき、新聞紙スリッパを作成しました。 ③振り返り 作成後、うまく作れたかの確認と新聞紙スリッパで足を守ることができるものの例（割れたガラスの破片や卵の殻）をお伝えしました。 最後に、今日学んだ「新聞紙スリッパの作り方」を家族や友達に伝えて、復習にもう一度スリッパを作ってみてほしいことをお伝えしました。
ここがポイント！	身近にある「新聞紙」を活用して、防災に役立つスリッパを作ってもらうことで「身近なものでも、防災に役立つんだ！」や「緊急時にスリッパが手元にない場合にどうしたらいいか」具体的な防災の学びになったかと思います。また、グループで行うことで、助け合いの大切さを学んでいただくこともできました。

朝見地区では、毎年地域住民と小学校が共同で防災訓練を行っています。防災を学ぶだけではなく、地域住民との交流の面で意味のある行事となっています。今回の防災訓練では、分かれたグループメンバーの学年は様々であり、高学年の子が低学年の子をスリッパづくりを手伝ってあげている姿が見られました。普段から、グループで支えあって活動されていること、強いつながりがあるのだなと感じました。



東部地区
地域担当者
の声

当日の様子





うまくできるかな？？



手作りスリッパの履き心地は・・・？
いい履き心地！！

取り組み名	「民生委員児童委員さんについて知ろう！」、「車いす・アイマスク体験」		
目　　標	民生委員児童委員さんについて知る、身近な福祉について学ぶ		
実施日	令和5年9月19日（火）・22日（金）	場　　所	射和小学校
所要時間	5・6限目　　13:35～15:00	対　　象	第４学年
講　　師	民生委員児童委員さん、社協職員		
準備物	記録できるもの、筆記用具、スライド、パソコン		



内　　容

【福祉について学ぼう！】

1. 導入で、本日のテーマや“自分たちの地域でみんなの生活が幸せであるように活動されている民生委員児童委員さん、射和まちづくり協議会　健康福祉部会について紹介をしました。
2. 民生委員児童委員さんより「民生委員とは何か？」、活動内容等について教えていただきました。
3. グループに分かれた後、１グループ１人の民生委員児童委員さんに付いていただき、談笑を通じて、民生委員児童委員さんとの交流を深めます。
4. 自分たちが始められる福祉について、一緒に考えます。

【車いす・アイマスク体験】

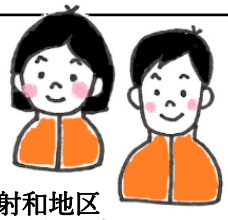
1. 事前学習
   身の回りにある点字や障がい者マーク等を探します。
2. 体験35分×2

（車いす・アイマスク体験をペアで交互に行う）

車いすの基本操作を学びます。実際に乗車し、介助する側と介助される側と交代しながら体験します。また、アイマスクを着用して視覚障がい体験をします。視覚障がい体験と誘導方法の体験を交代しながら行います。

ここがポイント！	自分たちの地域の為に活動して下さっている民生委員児童委員さんを身近に感じる事のできる機会だと思います。

今回の福祉教育を通じて、相手の立場になって考える事の大切さや、身近な福祉を学んでいただけたのではないでしょうか。本日の授業が皆さんの気づきにつながれば幸いです。
皆さんの積極的に学ぼうとする姿が素敵だなと思いました。これからも、射和地区の地域福祉活動を応援しています！！



射和地区
地域担当者
の声

当日の様子





民生委員児童委員さんと交流する様子





車いす・アイマスク体験の様子

取り組み名	アイマスク体験と誰もが住みやすい地域づくり		
目　　標	・「できないことではなく」、「同じ」と「違い」に気づこう ・誰もが住みやすい地域づくりにむけて、自分ができることを考えよう		
実 施 日	令和5年10月24日（火）	場　　所	宮前小学校体育館
所要時間	90分程度	対　　象	宮前小学校 5～6年生　22名
講　　師	社協職員		
準 備 物	アイマスク、ジュース3本、硬貨、トレイ		



内　　容

〇10:35～10:55　導入
視覚障がいがある方のガイドの方法について説明。危険な方法も紹介する等し、少し緊張感をもってもらうように工夫しました。

〇10:55～11:20　疑似体験
2人1組になりアイマスクを装着する側とガイド側の体験をおこなってもらいました。
また、コース上に他の感覚器官をしっかり使う体験コーナーを設置。
・嗅覚：3種類のジュースの匂いで種類を当てる
・触覚：指定された金額の硬貨を探してトレイからトレイに移す
※この2つのコーナーはガイド役のヒント出しは禁止としました。

〇11:20～11:25　休憩

〇11:25～11:40　疑似体験の続きとパラスポーツについて
パラスポーツであるブラインドサッカーの映像を鑑賞してもらいました。
激しいプレーの応酬を目の当たりにして、「ほんとに見えてないの？」「こんなのようしやんよ」といった声が自然と上がりました。このスポーツはサポート役がいて相互に協力しながらプレーします。自分たちの地域でも、相互に思いやり協力することが必要であることをお話ししました。

〇11:40～12:00　ふり返り「誰もが住やすい地域とは」
アイマスク体験とパラスポーツの鑑賞と通して、自分たちにできること・できないことを考えてもらい、障がいの有無に関わらず「誰もが住みやすい地域」を考え発表してもらいました。

〇12:00～12:10　記録

ここがポイント！

疑似体験通じて「大変」「できない」「かわいそう」といったネガティブな側面ばかりを捉えがちにならないように、日常生活の動作を入れることで「同じ」と「違い」を理解してもらうようにしていきました。また、ブラインドフットサルの映像を観て、自分にはできないこともたくさんあることを知ってもらえるようにしました。最後は誰もが住みやすい地域について考える時間を作りました。

宮前小学校は一年間を通していろいろな体験学習に取組んでみえます。
今回はアイマスク体験を通じて、「誰もが住みやすい地域」について考えてもらいました。これからも自身の郷土愛を育んでもらいながらこのような視点も持ってもらえるようなお手伝いができればと思います。



飯高地区
地域担当者
の声

当日の様子





ジュースの匂いで種類を当てている様子です。







指定された金額の硬貨を探してトレイからトレイに
移している様子です。なかなか難しそうでした。

取り組み名	地域ふれあいタウンウォッチング		
目　　標	実際に地域を歩いて「交通安全」「防犯」「防災」の三つの観点から危険な場所を理解する		
実施日	令和5年6月5日（月）	場　所	飯高町七日市地内
所要時間	1～4限	対　象	香肌小学校 1～4年生（13名）
講　　師	七日市地区のみなさん、防災・減災飯高、地域安全対策課		
準備物	バインダー、マップ、デジカメ、筆記用具		



内　　容

〇オリエンテーション
班の確認と注意事項の伝達、協力していただく地域のみなさんを紹介する。

〇移動
今回のフィールドとなる地域へ移動

〇現地で危険な場所、安全な場所を確認し撮影。マップに記録も行う。

【交通安全】・交通事故が起こりやすそうな場所
・交通安全施設、表示など
・アイテム

【防　　犯】・入りやすく、見えにくい場所
・安全な場所
・アイテム

【防　　災】・地震、台風などが発生した時に危険なところ
・災害対応資機材及び保管場所
・一時的に避難できるところ
・避難場所
・アイテム

※地域の方にはコース上で実際に起こった災害や事故、実際に空き家になっている家を教えていただきました。また、防火水槽・ホース格納箱・消火栓の中も確認し、使用方法も説明していただきました。

〇学校へ戻りマップ作りと発表
写真をプリントしマップへ、交通安全・防犯・防災のカテゴリー別に貼りつけて発表してもらいました。いろいろなことに気づきがあり、地域の知らない部分を発見してもらうことができました。

ここがポイント！

松阪市の安全対策課だけでなく、地域の方に協力をいただき、実際にこの場所で起きた災害や事故などを記録に落すことができました。元消防士や元消防団長など災害のスペシャリストに「いざという時のアイテム」（防火水槽や標識の意味など）まで教えてもらうことができ、学びを深めることができたと思います。

地域のみなさんが密接にかかわり「学校を良くしていこう」「ここでしかできない学びをしてもらおう」と素晴らしい体験学習が目白押しです。親子山村留学により、児童数が増えてきています。これからも学校の活動と地域の方をお繋ぎできればと思います。



飯高地区
地域担当者
の声



当日の様子








歩いて危険な場所を記録






記録をマップに落し込んで発表！



取り組み名	粥見小学校PTA研修部講演会「防災体験ひろば」		
目　　標	お互い顔を見合い協力して防災体験をすることで、災害時に一番大切な「自助・共助」を学び子どもたちが地域の一員として「災害時に自分にできること」を考えるきっかけとする。		
実施日	令和５年６月２３日（金）	場　　所	粥見小学校　体育館
所要時間	３・４限目　10：40～12：00	対　　象	全校児童と保護者
講　　師	松阪市防災対策課 松阪市社会福祉協議会（飯南地区福祉会・松阪市ボランティア連絡協議会飯南支部）		
準備物	ビニール袋（加熱用）、お米、鍋、カセットコンロ、水		
内　　容	児童と保護者、民生委員、主任児童委員がABCの色班ごと３班に分かれて ３つのブースを一緒に体験します。 ①備蓄品の紹介、毛布での搬送体験（松阪市防災対策課） ②簡易トイレ、簡易ベッドの組み立て体験（松阪市防災対策課） **③災害時の炊飯体験と試食（松阪市社会福祉協議会）** **○ビニール袋でご飯を炊く方法チラシを使って説明（保護者用と児童用のチラシを用意）** ≪基本的な必要条件≫ ①米と水があること　②耐熱用ビニール袋準備　③鍋　④カセットコンロ等火が扱えるもの **○実際にカセットコンロと鍋で炊飯し実践** ≪作り方＆注意点≫ ①ビニール袋に米と水を入れて袋の中の空気を全部抜き袋をしっかり結んで密閉する ②沸騰しているお湯に縁から滑らすように入れる ③ふたをして約25～30分炊けば完成！！ ≪ポイント！≫ 誰でも簡単に作れます。一人分ごとに作ることができ食器や箸は不要！ そのまま握ればおにぎりになり保存も可能！　片付けが簡単です！ **○さあ皆で食べましょう！** 自分でも作れるかな？　食べてみてどうだったかな？ みんなで話し合いながら沢山感想をいただきました。		
ここがポイント！	実際にご飯を炊いた「ビニール袋に入った米」を、自宅へ持ち帰り実践できるようお持ち帰り用を用意しました。子ども目線を考えて、実際に体験することで楽しみながら防災を学び、自分たちができることを考え、また家族の防災意識向上にもつながるよいきっかけとなりました。		



日頃、児童を見守っておられる地域の民生委員さんと主任児童委員さん、飯南地区福祉会さんが一緒にブースをまわり体験しました。また粥見小児童がメッセージカードを書いてくれている「ささえ愛弁当」の作り手である配食給食ボランティア「たけのこの会」の皆さんが調理ボランティアとして参加し、お互いが顔を見合わせご挨拶できました。

万が一の災害時のためにも、ご近所さんと「つながる」ことが大切です。これからも地域をつなぐ防災活動のお手伝いをさせていただきます！



飯南地区
地域担当者
の声

当日の様子

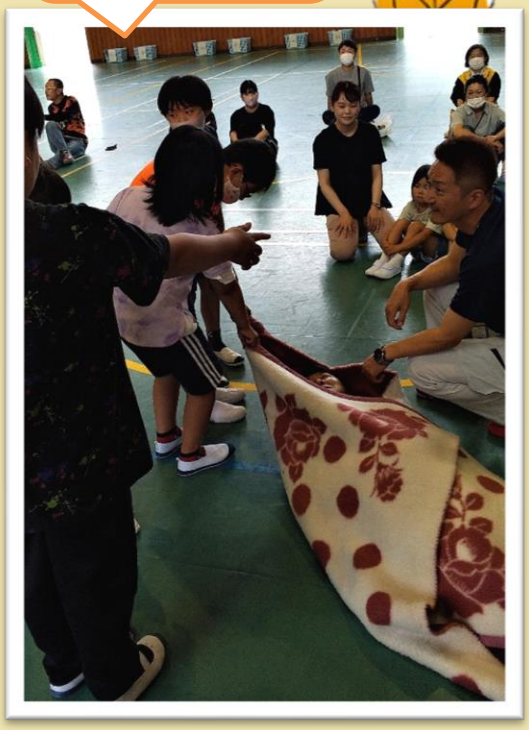


お米がビニール袋でどのように炊けるか興味津々！
子どもたちにも簡単にご飯が炊けます。
昆布や梅干しを入れてもOK！
美味しく炊き上がります(^^)

皆さんから甘くて美味しいと大好評(^^♪



地域の民生委員さんも一緒に毛布を使った搬送体験！
子どもも大人を運ぶことが出来ます！



ボランティアグループたけのこの会さんにご協力いただきました！



取り組み名	配食サービスを学び地域を知ろう！		
目　　標	自分の住む地域の活動と、その活動に関わる人について学びを深める。		
実 施 日	夏～秋	場　　所	松ヶ崎小学校 松ヶ崎地区市民センター等
所要時間		対　　象	松ヶ崎小学校６年生
講　　師	公民館長さん、配食サービスに係るボランティアさん、民生委員児童委員さん、社協職員		
準 備 物	タブレット、筆記用具等		
内　　容	**①公民館長さん、配食サービスに係るボランティアさんへインタビュー** 公民館長さんからは、高齢者の方へお弁当をお配りする配食サービスの歴史等についてお話ししていただきました。 ボランティアさんには、調理の様子の見学の後、「どんな思いで調理をされているのか？」「いつからボランティアをされているのか」等について教えていただきました。 **②民生委員児童委員さんにインタビュー** お弁当を高齢者の方にお配りしている民生委員児童委員さんに活動内容や「どのような思いで活動されているのか」等について教えていただきました。 **③赤い羽根共同募金、社協について学ぶ（出前授業）** 配食サービスの財源の一つでもある赤い羽根共同募金について、社協の仕事（ふくしのお話、仕事のやりがい、なぜこの仕事を選んだのか等）についてインタビュー形式でお話しさせていただきました。 **④お弁当の配食体験** 民生委員児童委員さんと一緒に高齢者宅へ伺い、お弁当の配食体験を行いました。 高齢者の方と直接お会いし、お弁当と小学生の皆さんが書いた手紙をお渡ししました。お礼や励ましのお言葉をいただいていました。 **⑤これまでの学びを発表** 小学校の文化祭で今まで学ばれた内容について発表をされました。また、その際に赤い羽根共同募金運動もやっていただきました。		
ここがポイント！	地域に住む方々が「地域の先生」となり、多くのことを教えてくださいました！ 身近に学べる環境がある。地域の皆さんに感謝ですね☺		



配食サービスについて学ぶことで、地域に住む方々が地域を支えるかけがえのない存在であることを知っていただけたと思います。また、社協からは「赤い羽根共同募金」が地域のために使っていることをお話しさせていただきました。その後、地域のために出来ることとして、小学校の文化祭で児童さん主体で募金運動をしていただきました。

北部地区地域担当者の声



当日の様子



公民館長さんやボランティアさんへ
インタビュー



赤い羽根共同募金や「ふくし」について
お話しさせていただきました！



民生委員児童委員さんと一緒に
お弁当をお届け

取り組み名	総合学習「地域の人から学び、考えよう」		
目　　標	第四小学校区の企業などをまわり、人や仕事を通じて学びを深める		
実 施 日	令和５年１２月１日（金）	場　　所	松阪社協　松阪支所
所要時間	約１時間	対　　象	第四小学校　６年生　４名
講　　師	社協職員		
準 備 物	メモできるもの		



内　　容	①授業準備として、事前に児童より組織に入電があり、当日の段取りを児童自ら確認されました。 ②松阪社協　松阪支所に来所頂きました。はじめにお互い自己紹介をしました。 ③社会福祉協議会についてや「ふくし」について説明をさせて頂きました。 ④実際に社協で働いている職員にインタビュー形式でお話しさせて頂きました。 ・普段の仕事内容について ・なぜこの仕事をしようと思ったのか ・どのような思いで仕事をしているのか ・今、伝えたいこと　など ⑤施設内にある事業所の紹介をさせていただきました。 また、障がい者支援・高齢者の介護予防体操教室の現場を見学し、職員から話を聴いていただきました。 ⑥質疑応答と振り返りをおこないました。
ここがポイント！	自分の住む地域で働く方から仕事への思いなどを学ぶことで、今後の自分自身を見つめ直すきっかけになると感じます。

学んだことを授業参観で発表していただきました。児童の感想で「私も人の役に立つ仕事がしたい」といったお声を頂きました。人を思いやる温かな気持ちが広がっているように感じました。



北部地区
地域担当者の声



地域福祉事業
担当者の声

今回の総合学習を通じて、松阪社協の役割についてお話をしました。児童のみなさんからは「初めて知ることがあった」等と感想を頂きました。松阪社協について知っていただくことができ、嬉しく思いました。

当日の様子



社協についてのお話しをしました！



各事業所のご紹介！

取り組み名	ボランティアグループ「ユニバーサルデザイン夢現」によるUD出前授業
目　　標	アイマスク・車椅子体験を通じての当事者の状況を考える。支援の基本を学ぶ。ユニバーサルデザインを知る・考える（心のユニバーサルデザイン）
講　　師	ユニバーサルデザイン「夢現」
準 備 物	アイマスク、車椅子、UDグッズ
内　　容	①講話 （ユニバーサルデザイン・バリアフリー・視覚障がいについてなど） 視覚障がい者当事者のメンバーより、生活の状況やユニバーサルデザイングッズの紹介をしていただきます。また、心のユニバーサルデザインの大切さについてお話をしていただきます。 ②体験 （車いす・アイマスク体験をペアで交互に行う） 車いすの基本操作を学びます。実際に乗車し、介助する側と介助される側と交代しながら体験します。 ③アイマスク アイマスクを着用して視覚障がい体験をします。視覚障がい体験と誘導方法の体験を交代しながら行います。 ④ユニバーサルデザイングッズを触って、知る 様々なユニバーサルデザイングッズを実際に見て触っていただき、シャンプーのボトルなど、身近なところでユニバーサルデザインが使われていることを学んでいただきました。
	今後考えられる発展的な取組みとして… ○ ユニバーサルデザイングッズを考えてみよう。 「こんなものがあったらいいな」というオリジナルグッズを考える。 ○ 障がい者スポーツ体験（ボッチャ体験など）をしてみよう。
ここがポイント！	・ボランティアグループと連携をした授業を展開します。 ・当事者の声を直接伺うことができ、体験を通じた学びが得られます。



アイマスクや車イス体験をすることで、当事者の気持ちなどを感じることができ、自分には何ができるのかを考える良い機会になると思います。思いやりをもって生活してもらえたら嬉しいです。ボランティアのみなさんも住みやすい地域になればとの思いで活動をされていて、体験されるみなさんが真剣に取り組む姿を見て、励みになっています。



ボラセン
担当者の声

当日の様子



～当事者による講和～
当事者の生活に欠かせないグッズに興味津々！！



～アイマスク体験～
2人1組で「段差あるよ」「今から階段昇ります」の声掛けで、安心して体験できました。



～ユニバーサルデザイン(グッズ)の紹介～
普段の生活の中にもユニバーサルデザインはあるよ！



～車イス体験～
初めての車イス、お手本通りにできるかな！！



「ユニバーサルデザイン夢現」さんは、“誰もが自由に生活や活動が出来るバリアフリー社会の実現に向けて活動”をされています。
令和4年～5年度にかけて、以下のとおり、出前授業の要請がありました。

- 6月30日　山室山小学校
- 9月29日　第四小学校
- 10月3日　花岡小学校
- 11月14日　徳和小学校
- 11月20日　第五小学校
- 11月24日　米ノ庄小学校
- 11月29日　伊勢まなび高校



地域福祉教育プログラム
を体験した

先生・生徒の声



中原小学校　4年生　・　体験や交流を通じ多様性を理解し、普段からできることを考える

「災害時に１人の犠牲者も出さない」ことを目標に掲げている中原地区。地域には高齢者が多く、いろんな人が住んでいることを理解するため、疑似体験や車いす体験を行いました。地域の目標を達成するために災害時だけでなく普段のつながりが大切であることを確認した後、つながりづくりの手段の１つであるボランティア活動の体験や学習を行いました。子どもたち１人１人が地域の主人公であり、「自分たちにできること」を考えるきっかけづくりができました。



●気づき
車いすに乗っている人だけでなく、周囲も気にかけないといけないので大変だった。
「進みますね」など声をかけてもらうと安心できた。
●振り返り
大変そうな人がいたら助けたい。



●感想
・食材の大きさの工夫や手紙を添えるなど、高齢者のことを大切に考えていることがわかった。
・おじいちゃんおばあちゃんと一緒にご飯を食べたい。（誰かと一緒に食べるとおいしい）

①高齢者疑似体験 → ②車いす体験 → ③絵手紙体験 → ④ボランティア活動を学ぼう

●気づき
・字が見えにくい
・聞こえにくい
・身体が重い
●振り返り
・優しく普段から関わりたい
・声かけをがんばりたい
・こんなに大変だと初めて知った



●ボランティアのイメージ
・やさしい
・見守ってくれる
・あいさつ
●気づき
・絵手紙をもらったら嬉しい
・元気が出る
・相手を想って描くことが大切



目標
みんなが
まちづくりの主人公

	実施日	メニュー・協力いただいた方々	内容
①	6月23日(金) 2限～4限目	**高齢者疑似体験** 協力：松阪市第二地域包括支援センター	・見えにくさ、聞こえにくさの体験 ・歩きにくさ、体の動かしにくさの体験 ・年をとると身体はどう変化する？
②	7月10日(月) 2～3限目	**車いす体験**	・整備された通路とそうでない通路の操作のしやすさ、しにくさの体験 ・スロープ、段差 ・災害時に大切にして欲しいこと
③	10月12日(木) 2～3限目	**絵手紙体験** 講師：日本絵手紙協会　公認講師 協力：嬉野絵手紙ボランティア　楽嬉	・ボランティアの4原則 ・絵手紙をかいてみよう
④	11月28日(火) 2～3限目	**ボランティア活動を学ぼう** 協力：地区福祉会、嬉野地区民児協 ヘルスメイト	・「ふ」「く」「し」とは？ ・配食サービスについて ・料理・配達に携わる方より、大変なこと、やりがい、大切にしていることのお話、調理の様子の見学



比留田
先生

学習後、児童さんにどのような変化がありましたか？

実際に体験することで何気ない声かけや相手を思いやる心で接することが、どれだけ安心やよろこびを生むかということに気づくことができました。普段の生活の中でも相手意識を持って行動する場面が増えました。



比留田
先生

体験学習を行ってみて、先生の感想を教えてください。

子どもたちは体験することで、想像力を育んでいくのだと感じました。大人が当たり前だと思っていることも、子どもたちにとっては、ピンとこないことが多いです。だからこそ体験学習は大切だと子どもたちの姿から学びました。

豊地小学校　4年生　・　体験や交流を通じた多様性の理解（みんなが「自分らしく」暮らすために）

心のバリアを取りはらうために、決めつけではなく相手を知り、寄り添い合うことが大切であるということを学ぶきっかけづくりにしました。”苦手“は特別なことではなく、誰にでもあること。同様に”得意“なことも誰にでもあり、誰もが支え合っていることを体験的に学習しました。



●気づき・感想
・いろんなところに点字があることを知った。
・点字を打つのに、力が必要だった。
・誰もが生活しやすいように支え合う。





●気づき・感想
・身近なものが、障がい者施設で作られている（支えられている）ことがわかった。
・“ふわり”との出会いが特別な時間になった。

目標
心のバリアをとっぱらおう

①河原さんとの出会い学習

●気づき・感想
・目が見えないことはかわいそうと思っていたけど、幸せそうに話している河原さんを見て、その気持ちがなくなった。みんな同じだと思った。
・「手伝いましょうか？」と声をかけられるようになりたい。

②点字学習



③高齢者疑似体験
車いす体験

●気づき・感想
・お金の区別がしにくく、買い物の時に大変なことがわかった。
・スロープや段差を超えるのが難しかった。
・人が安心する言葉で話しかけたり話を聴いたりしたい。

④“ふわり”との出会い学習



	実施日	メニュー・協力いただいた方々	内容
①	10月10日（火） 2限目	**河原さんとの出会い学習** 協力：三重県難病相談支援センター 所長　河原　洋紀さん	・河原さんの得意なこと、普段の生活 ・視覚障がい者を支える機器紹介、周囲の理解の大切さ
②	10月16日（月） 2～3限目	**点字学習** 協力：松阪点訳友の会	・視覚障がい者を支えるボランティア ・点字の歴史、身近にある点字 ・点字体験（栞づくり）
③	11月7日（火） 2～4限目	**高齢者疑似体験** **車いす体験**	・高齢者とは？地域の高齢化率 ・加齢による身体機能の変化 ・体験
④	11月22日（水） 3～4限目	**“ふわり”との出会い学習** 協力：就労継続支援B型事業所　ふわり	・“ふわり”について ・“ふわり”を利用されている方々の苦手・得意 ・”ふわり“利用者との作品づくり



太田先生

学習後、児童さんにどのような変化がありましたか？

寄り添う言動がさらにふえ、温かい関係を築きなおすことができました。勝手な決めつけで関わるのではなく、相手を知ることの大切さを学び、また、人と関わるための行動を考えることができるようになりました。



太田先生

体験学習を行ってみて、先生の感想を教えてください。

実際に体験することで、どのような困り感があるのか、どのような言葉がけが安心するのかを考えることができました。たくさんの出会いをさせていただき、子どもたちにとって、私にとって特別な時間を過ごすことができました。